【教科／科目：商業／プログラミング】　教諭　永山　秀一

１．日時　令和５年９月２５日（月）４校時
２．場所　商業棟２階プレゼンテーション室
３．対象クラス　情報ソリューション科　ＩＩ　３０名
４．本時の目標

身近な事例（カレー作り）や Miro を活用してアルゴリズムに主体的・協働的に取り組み、論理的思考について理解する。

５．展開

段階	具体的な内容・活動	指導上の留意・配慮事項	評価内容・評価方法
導入 ３分	１．教師の話を聞く ２．ゴールイメージ（完成した表）を中央モニターで見る	本時のめあて「論理的思考を理解しよう」を伝える ○生徒が中央モニターを見ているか様子を確認する	
展開 43分	３．論理的思考について知る ４．プリントを配布し、自分で考え、記入する ５．Miro を活用し、周囲と協働的に取り組む。 ６．各班発表	○論理的思考は筋道を立てて考えること。目的（今回はカレー）を達成するために要素分解して手順や、解決の手立てを考えることを理解させる。 ○論理的思考を使って、カレーの作り方について自分で考え、プリントに記入させる ○自分で作成したプリントをもとに、Miro を活用し、周囲と協働しながら意見をまとめさせる。 ○各班（全６班）２分程度で発表させる。【１２分】	◇身近な事例（カレー作り）をもとに、アルゴリズムに取り組む。 【主体的に学習に取り組む態度】 ◇Miro を使用して、主体的・協働的に取り組む。 （活動の記録はとるが、評価は発表とまとめて行う） 【主体的に学習に取り組む態度】 （参考） 【主体的に学習に取り組む態度】（５段階評価） １論理思考△、協働取組△ ２論理思考○、協働取組△ △、○ ３論理思考○、協働取組○ ４論理思考◎、協働取組○ ○、◎ ５論理思考◎、協働取組◎
まとめ ４分	○プログラミングで重要となるファクター（論理的思考）が何だったかを振り返る。Mentimeter を使用。	○本時のめあてについて確認するよう促す。	

【教科／科目：商業／ビジネス基礎】　教諭　永山　秀一

１．日時　令和５年１１月　６日（月）４校時
２．場所　商業棟２階プレゼンテーション室
３．対象クラス　情報ソリューション科　ＩＩ　３０名
４．本時の目標

ＶＵＣＡの時代を生き抜くために、本校ではどのような学科間連携ができるのか考えよう。

５．展開

段階	具体的な内容・活動	指導上の留意・配慮事項	評価内容・評価方法
導入 ２分	１．教師の話を聞く	○本時のめあて「VUCA の時代を生き抜くために、本校ではどのような学科間連携ができるのか」を伝える	
展開 40分	２．社会背景を知る	○ＶＵＣＡ（ブーカ）について説明する。 「Ｖ」Volatility　（変動性） 「Ｕ」Uncertainty（不確実性） 「Ｃ」Complexity　（複雑性） 「Ａ」Ambiguity　（曖昧性） これまでのような価値観や社会の仕組みでは予測が困難になっているということを伝える。 このような中、産業界においては産業間の連携を進める動きがある。	
	３．各学科（農業・工業・商業）について学ぶ	○事前に農業科と電気科で学んできた情報をグループ内で共有する。	
	４．学科間連携（農業と工業）の事例から学ぶ	○農業科・電気科職員が連携事例紹介を行う。	◇FigJam を活用して、意欲的、協働的にディスカッションに取り組もうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】
	５．２学科間連携（農業×商業、工業×商業）のについて学ぶ	○班ごとに学科間連携について考えさせる。	
	６．３学科間連携（農業×工業×商業）について考え、資料を作成する	○意見の集約やシンキングツールに「FigJam」を使用する。	
まとめ ３分	７．本時の復習	○ＶＵＣＡの時代を生き抜くためには、新しい価値観や社会の仕組みを生み出す必要性があることを伝える。 本校でできることの１つが「学科間連携」であるということ。	
	８．次回の授業の説明	○今回作成した資料を「Google スライド」にまとめ、１班３～５分で発表することを伝える。	※次回、発表内容・発表姿勢を【思考・判断・表現】で評価する